

活動報告

2018年度 全学教育センター FD 活動報告

榎本 綾

日本福祉大学 全学教育センター

Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University  
Inter-departmental Education Center in the Academic Year 2018

Aya ENOMOTO

Inter-departmental Education Center, Nihon Fukushi University

1. 2018年度全学FD概要

全学FD活動は、全学的な教育開発課題に関する知識や情報の共有を主として、本学教職員の教育・業務遂行スタンダードの形成に資することを目的として実施してきた。2007年度に「きょうゆうサロン」と「バスツアー」を実施したことを皮切りに、その時々の時流に即した課題に焦点を当て、その取り組みを拡大してきている。

2018年度は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（文部科学省助成事業・2014年度採択）および「大学教育再生加速プログラム」（文部科学省助成事業・2016年度採択、以下“AP事業”という）と連動して、地域連携教育の推進と卒業時の教育の質保証に関連したFDを行うとともに、新任教員を対象とするFD・SDを実施した。各FDの日程とテーマ、参加者数を表1-1に示す。

1-1. 全学FD

1) 卒業時の質保証と学修の管理・支援

2016年度に採択を受けた文部科学省の高大接続改革推進事業「大学教育再生加速プログラム」（AP事業）の一環でポートフォリオシステムを開発し、2018年度より他学部には先行してAP事業の対象学部である社会福

祉学部および子ども発達学部にて導入した。教育の質保証の観点から、学生自らが学修のPDCAサイクルを回していくことができるようになることをひとつの目的としている。

6月18日開催の「学生の学修を促すeポートフォリオの活用」をテーマにしたFDでは、本システムを活用して学生の学修意欲喚起のための指導・評価をより効果的に実施していくことができるよう、システムの活用イメージを獲得することをねらいとした。実際のシステム操作を通してその構成を学ぶとともに、運用方法をイメージし、参加した教職員同士によるペアワークでそのイメージを共有した。

また、10月14日にはAP事業の成果普及を目的として、「教育の質保証を考える」をテーマに学内外に向けて公開型の「FDシンポジウム」を開催した。本学のAP事業の概要を紹介した後、4学部と全学教育センターから教育の質保証に関する6つの取組報告を行った。さらに、フロアとともに教育の質保証に関して活発な意見・情報交換を行い、取組報告では紹介しきれなかった具体的な取組内容を共有した。学生が卒業までに身に付けるべき力とディプロマ・ポリシーとの関連や、学修到達レポートに掲載するための正課外活動の認定方法などの質

表1-1 2018年度全学FD実施概要

全学FD		
開催時期	開催テーマ	参加人数
	講師・話題提供者	
「卒業時の質保証と学修の管理・支援」		
2018年6月18日	学生の学修を促すeポートフォリオの活用	29名
	全学教育センター 村川弘城 助教	
10月14日	FDシンポジウム 教育の質保証を考える	39名
	全学教育センター長、AP事業推進委員長 中村信次 教授	
	社会福祉学部 末盛慶 准教授	
	経済学部 鈴木健司 准教授 スポーツ科学部 安藤佳代子 助教 全学教育センター 佐藤大介 助教 全学教育センター 村川弘城 助教	
「教育方法及び教育改善」		
2018年8月8日	「専門種目以外の授業を担当した際の工夫」、「教科教育の重要性」をテーマとしたソフトボールの授業実践報告	14名
	全学教育センター 高村秀史 助教 成瀬徹 講師	
2019年2月13日	ノルディックウォーキング講座	13名
	みはまスポーツクラブ, JNFA 公認インストラクター 八代栄子 氏	
2019年3月	これまでの全学教育センター科目「文書作成力演習」、「コミュニケーション力演習」の講義内容の振り返りと講義要点のまとめ	(報告書の提出のみ)
	社会福祉学部 矢崎裕美子 助教	
「きょうゆうサロンバスツアー」 地域連携教育の推進		
8月9日	知多半島南3町(南知多町, 美浜町, 武豊町)でのフィールドワーク	15名
	全学教育センター 佐藤大介 助教	
新任教員FD・SD		
開催時期	開催テーマ	
2018年4月4日(第1~4講)	新任教員オリエンテーション (キャンパス紹介, 教務オリエンテーション等)	
5月10日(第5・6講)	(学生部事項) 学生状況, 配慮を必要とする学生の理解・対応	
	(入試部事項) 学生募集・入試制度, 入試スケジュール, 推薦系入試・面接にあたって	
5月24日(第7講-1)	(学長事項) 本学の危機管理, 日本福祉大学のミッションの継承 (理事長事項) 理事長懇談	
6月6日(第7講-2)	学園長講話	
6月28日(第8・9講)	(総合研究機構長) 研究関連状況, 研究支援	
	(就職部長) 就職状況, キャリア支援	
7月5日(第10講)	教務事項, 本学の教務試験の仕組み, 障害学生への試験配慮	
7月19日(第11講)	前期研修の振り返り	
10月18日(第12講)	各キャンパスの「安全の日」企画への参加	
11月15日(第13講)	大学の意思決定の仕組み	
11月29日(第14講)	大学における「3つのポリシー」, シラバスの作成にあたっての留意事項	
2019年2月13日(第15講)	赴任初年度の振り返り	

問がフロアから寄せられ、学修成果の可視化や教育の質保証に関する参加者の関心の高さが窺えた。

## 2) 教育方法及び教育改善

8月8日、2月13日に実施したFDは、2017年度までの「スポーツに資するFD」の流れを汲んだものである。前者では、スポーツ科目担当教員（専任、講師）を対象に、成瀬徹講師より「専門種目以外の授業を担当した際の工夫」、「教科教育の重要性」をテーマに、ソフトボールの授業実践を題材に報告いただき、参加者間で課題共有と議論を行った。後者では、スポーツ科目担当教員以外の教員・職員も対象に、JNFA公認インストラクターの資格を持つ、みはまスポーツクラブの八代栄子氏による指導の下、ノルディックウォーキング講座を開催した。ノルディックウォーキングの効果とウォーキング時に両手に持つボールを使ったストレッチを教わった後、美浜キャンパス内外にてウォーキングを実践し、気軽に楽しみながら健康づくりに取り組める生涯スポーツの意義の浸透を図った。

3月にとりまとめを行った3つ目のFD（これまでの全学教育センター科目「文書作成力演習」、「コミュニケーション力演習」の講義内容の振り返りと講義要点のまとめ）では、2011年から開講の「文章作成力演習」および2013年から開講の「コミュニケーション力演習」の担当教員から教材を収集し、全学教育センターの同科目担当経験者とも協力し、これまでの科目担当教員が実施してきた教育内容のとりまとめを行った上で、各科目の概要と講義のポイントを資料にまとめた。これらの科目で扱うことは、広く学生に必要な能力であることから、全学部の本FDの成果を共有するため、また、今後の同科目担当教員がこれらのポイントを共有して授業が行えるよう、資料として整理したものである。

## 3) きょうゆうサロンバスツアー 地域連携教育の推進

「地域連携教育におけるフィールドワークの学び  
～知多半島南3町を巡る、歴史探訪バスツアー～」

地域連携教育を推進する教職員が地域の魅力を発見し、関係者同士の「出会い」や「つながり」を構築することを目的に、美浜キャンパスが居を構える美浜町と隣接する南知多町、武豊町をフィールドとしたバスツアーを実施した。

美浜町ではまちづくり支援を行う地域交流拠点

「Chabs」、流下式枝条架塩田で特産品の塩の製造工程体験ができる観光施設「食と健康の館」、6次産業化や地域連携を進める株式会社萬秀フルーツを、南知多町では有力船主であった内田家により明治初期に造られた尾州廻船内海船船主内田家とゲストハウス「ほどほど」を、武豊町では二百年の歴史ある杉桶で味噌・溜を天然醸造している伊藤商店を訪問し、各町の歴史と特長を学んだ。また、地域連携教育を推進する上で理解しておくべき地域の「資源」を実際に現地を見て、当事者の方々から想いのこもった話を聞くことの重要性を改めて感じることができた。

## 1-2. 新任教員FD・SD

新任教員FD・SDは、本学に新たに赴任した専任教員を対象とした学習プログラムである。日本福祉大学スタンダード（所属学部によらず本学学生が卒業までに身に付けるべき資質・能力：伝える力、見据える力、関わる力、共感する力）に関わるGP事業の一環で2009年度より開始し、現在は副学長の下で実施している。赴任初年度から教育・研修の推進に関するより広範な知識の獲得を図るため、それまで年6回だったところ2015年度から全10回に、2017年度からは全15講と内容を拡充させた（表1-1参照）。

2018年度は、前年度と同様に、全学で推進中の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と「大学教育再生加速プログラム」に関する内容をプログラムに盛り込み実施した。

対象者は2018年度新任教員17名（業務時間認定対象者）であった。

## 2. 総括

地域連携教育の推進と卒業時の教育の質保証に重点を置くとともに、それらに関連する教育方法及び教育改善のFDを一年間進めてきた。2018年度末で、2014年度に採択を受けた「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の文部科学省による補助期間は終了したが、本学は全国様々な地域出身の学生が多数在籍するため、同事業で取組対象としていた地域（美浜町、半田市、東海市、知多市）から、友好協力宣言や包括協定を結ぶ地域等へとその範囲をさらに拡大して、地域連携教育を展開していく。それには、これまでの地域連携教育に関するFDの積み重ねにより、教職員が教育方法や地域と協働

する手法を獲得してきたことが寄与すると考える。

卒業時の教育の質保証に関しては、「学生の学修を促すeポートフォリオの活用」をテーマにしたFDに、ポートフォリオ導入学部以外の学部の教員の参加も可能とし、ポートフォリオの操作性と運用・活用方法を知る機会となったことで、2019年度からのAP事業の全学展開の一助を担った。AP事業は2018年度に初めて、取組対象学部で計画していたすべての取組を一年間のサイクルで実施した。今後はその成果の学内外への発信と全学への浸透を図るために、実践報告を行うFDを企画し、昨今の多様化する学生たちの状況に対応した教育の質保証に繋げていく必要がある。

さらに、多様化する学生に関連し、全学に開かれる「文書作成力演習」、「コミュニケーション力演習」の振り返りと講義要点のまとめを行ったことは、学生が大学での学びを深めるための基礎力養成における一定の教育手法を総括できたという点で意義のある成果となった。リメディアル教育や学修支援の側面からもニーズの高い能力であることから、全学教育センターおよび各学部での教育に活かしていきたい。